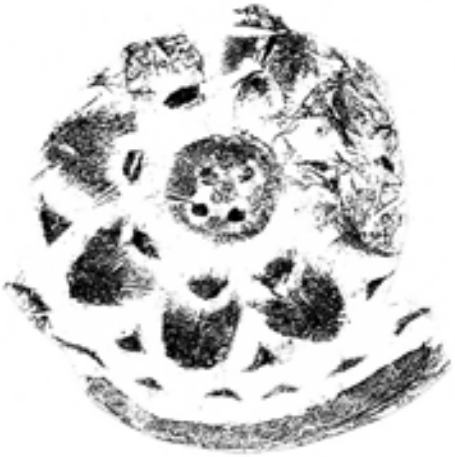
平成 18 年度

茨城県指定史跡 台渡里廃寺跡長者山地区

―範囲確認調査現地説明会資料―



2007 年 1 月 21 日(日)

13:00～

14:30～

水戸市教育委員会

茨城県指定史跡　台渡里廃寺跡長者山地区
範囲確認調査の成果

調査地域　水戸市渡里町字長者山

調査面積　約 387 ㎡

調査主体　水戸市教育委員会

調査期間　2006 年 10 月 3 日ー2007 年 1 月 31 日

1．調査に至る経緯と調査の目的

台渡里廃寺跡(だいわたりはいじあと)は，那珂川右岸の標高 34ー31m の台地上に位置する，古代常陸国那賀郡の役所と役所に関連する寺院が複合した遺跡です(第 1 図・第 2 図)。

北から長者山(ちょうじゃやま)地区，観音堂山(かんのんどうやま)地区，南方(なんぼう)地区に分けられていて，平成 18 年 12 月現在は，観音堂山地区と南方地区が国の史跡に，長者山地区が県の史跡に指定されています。

戦前に行われた高井悌三郎(たかいていざぶろう)氏の調査および昭和 48 年の水戸市教育委員会の調査では長者山地区から那賀郡衙(なかぐんが)の正倉(租税として集めた穀物を収納しておく倉)とみられる瓦葺きの礎石建物跡が 4 棟分，見つかっており，「阿波郷大田里(あわごうおおたのさと：旧桂村阿波山神社付近)」や「川辺郷小河里(かわべごうおがわのさと：旧御前山村川辺付近)」など那賀郡の地名や「土師部小刀良(はじべのことら)」，「真國(まくに)」など人名を記した文字瓦が多数，出土しています。

瓦葺きの正倉が見つかっている周辺の畑地からは，炭化米も出土していることから那賀郡衙に租税として集められた穀物を収納しておく，この一帯が正倉院であった可能性が高いと考えられますが，その範囲は明確となっていません。水戸市教育委員会では，史跡の保存と活用を図っていくために，今後，数カ年かけて範囲を確認する調査を実施する予定です。

2．今年度の調査目標

那賀郡衙の正倉院(租税として集められた穀物を収納しておく高床式倉庫群)とみられる茨城県指定史跡台渡里廃寺跡長者山地区の範囲を区画する溝の位置を確認するとともに，正倉院を構成していた瓦葺きの正倉の位置や規模，構造を把握する。

3．確認調査の成果

(1)複数あった総瓦葺きの正倉

高井悌三郎氏の調査で確認されていた「長者山第 2 号跡」は，桁行きが 20m を超える 1 棟の礎石建物であると考えられてきましたが，今年度の調査の結果，10m 四方の基礎を持つ 3×3 間の礎石建物跡が 2 棟，10m の空閑地を隔てて並んでいるものであることが確認されました。

このうち西側の礎石建物跡(SB002-a)は，基礎の規模が南北 9.8m，東西 11.1m でした。柱の間隔は 9 尺(2.7m)で，基礎の北西部付近には火災で焼失した際に焼け落ちて堆積したとみられる瓦層が認められます。

東側の礎石建物跡(SB002-b)は，発掘調査の結果，柱の列の部分だけを帯状に掘り込む布地業(ぬのちぎょう)

と呼ばれる作り方で基礎を作っていて(第4図・第5図)，長さ10.0m,幅2.0m，深さ1.4mの基礎を4列分，地面を掘って土を薄く層状に搗き固めながら盛り上げて行き，その上に礎石を置いたものであることが分かりました。基礎の規模は南北10.0m，東西10.6mの範囲に及んでいました。柱の間隔は10尺(3.0m)で，基礎の上およびその周辺には焼失した際に焼け落ちたとみられる瓦が認められています。

高井悌三郎氏の調査で確認されていた「長者山第1号跡」(SB001)は7×4間の東西24m，南北9.6mという長大な礎石建物跡で柱の間隔は東西が10尺(3.0m)，南北が8尺(2.4m)でした。

これまで，栃木県上三川町上神主・茂原官衙遺跡(かみこうぬし・もばらかんがいせき)や栃木県那珂川町那須官衙遺跡(なすかんがいせき)のように郡衙正倉院の中で桁行きが20mを超えるような礎石建物が総瓦葺きと判明している例はありましたが，基礎の形が正方形となるような3×3間の正倉は，板葺きか茅葺きあるいは棟の部分にのみ瓦を葺いた例が一般的であると考えられてきました(第7図・第8図)。

しかし，今年度の発掘調査の成果から，長者山地区から確認された正倉のうち2棟は，総瓦葺きの「瓦倉(がそう)」と考えられ(第9図)，那賀郡衙では3×3間の一般的な正倉の一部にも総瓦葺きを採用していたということが分かってきました。

礎石の大半は後世の土地利用により失われてしまっていますが，礎石の下に据え置く根石(第4図・第5図)が良好な状態で残っていて，保存状態は極めて良好であることが確認されました。

また，高井悌三郎氏の調査と昭和48年の水戸市教育委員会による調査が及んでいない箇所からも，正倉とみられる礎石建物跡の基礎が8箇所で確認されていて，筑西市新治郡衙跡やつくば市平沢官衙遺跡のように正倉が列になって並んでいた(第3図)可能性が高いことも分かってきています。今年度の調査でそれらの全容を解明することは困難ですが，次年度以降に確認調査を行なってきたいと考えています。

(2)正倉を囲む溝を確認

高井悌三郎氏の調査で確認されていた「長者山第1号跡」の北側において，正倉院の周りを巡っていたとみられる溝跡を確認しました。溝跡は上面幅が2.5mで，深さ1.5mの断面逆台形の溝です。

類例や溝跡から瓦が出土していることから郡衙正倉院の北辺を区画する溝である可能性が高いと考えられます。これまで範囲がはっきりしていなかった，長者山地区の北限を示す区画溝を確認することができたことにより，範囲を絞り込む重要な手がかりを得ることができました。

(3)多量の文字資料

「長者山第1号跡」からは昭和18年に行われた高井悌三郎氏の調査で267点の文字瓦が出土していました。今回の発掘調査でも160点を超える文字瓦が出土しています(第10図)。

文字瓦の中にはこれまで出土していた「真國(まくに)」や「阿波郷大田里(あわごうおおたのさと)」など同じ文字瓦も出土していますが，「阿波中村(あわなかむら)」や「小河里土師部(おがわのさとはじべ)」，「丈部長(はせつかべのおさ)」，「丈部村男(はせつかべむらお)」，「物部(もののべ)」などこれまでに出土していない文字瓦もあり，那賀郡衙正倉院の造営に携わった常陸国那賀郡内の地名や人名を復原していく貴重な文字資料が得られました。

(4)多賀城系の軒丸瓦

礎石建物跡からは，宮城県多賀城市にある多賀城跡(たがじょうあと)に葺かれていた軒丸瓦(のきまるがわら)と類似する重弁八葉蓮華文軒丸瓦(じゅうべんはちようれんげもんのきまるがわら)が出土しています(第11図)。『続日本紀』には那賀郡の郡司が，陸奥国鎮所(多賀城跡)に私穀三千斛(こく)を軍糧(ぐんろう)として送ったという記事があり，多賀城跡と那賀郡のつながりを示唆する資料です。

4．今後の課題

(1)どこまでが正倉院の範囲か(東側・西側・南側を区画する溝の探索)

(2)何棟の正倉があったのか(列の数と一列の棟数の確認)

(3)全ての正倉が総瓦葺きか(瓦の分類と出土量の分析)

(4)正倉はどのような外観であったのか(寄棟なのか切妻なのか，出土瓦の分析)

(5)どのような穀物が収納されていたのか(コメだけでなく，アワ・ヒエなどの雑穀類があるのか，炭化物の分析)

(6)どのような景観であったのか，全ての建物が同時に並んでいたのか(建物の主軸方位，基礎の中の瓦の有無，屋根に葺かれていた瓦の分析)

以上の課題を次年度以降の調査で解決していくことで，那賀郡衙の正倉院の範囲の確定や当時の景観を復原していくことが可能になると考えています。

※推定される正倉１～７は，ボーリングステッキによる調査や部分的な試し掘りで基礎や礎石を確認したものであり，位置・規模については大凡のものです。正確な位置・規模については来年度以降の調査で確認していく予定です。

縮尺：1／500

正倉区画溝

長者山第１号跡（ SB001）

推定される正倉1

推定される正倉2

推定される正倉3

推定される正倉4

SB003

推定される正倉5

長者山第２号跡

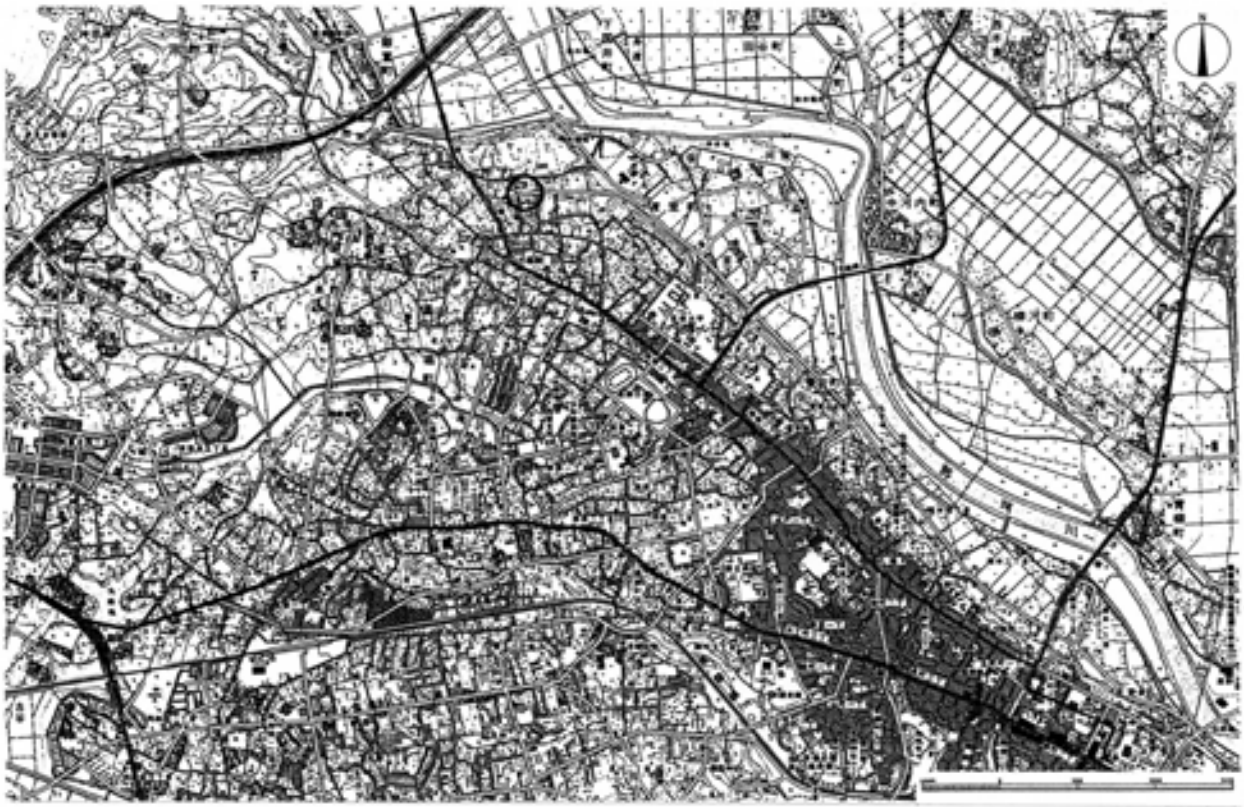
（ SB002 ）

（ SB004 ）

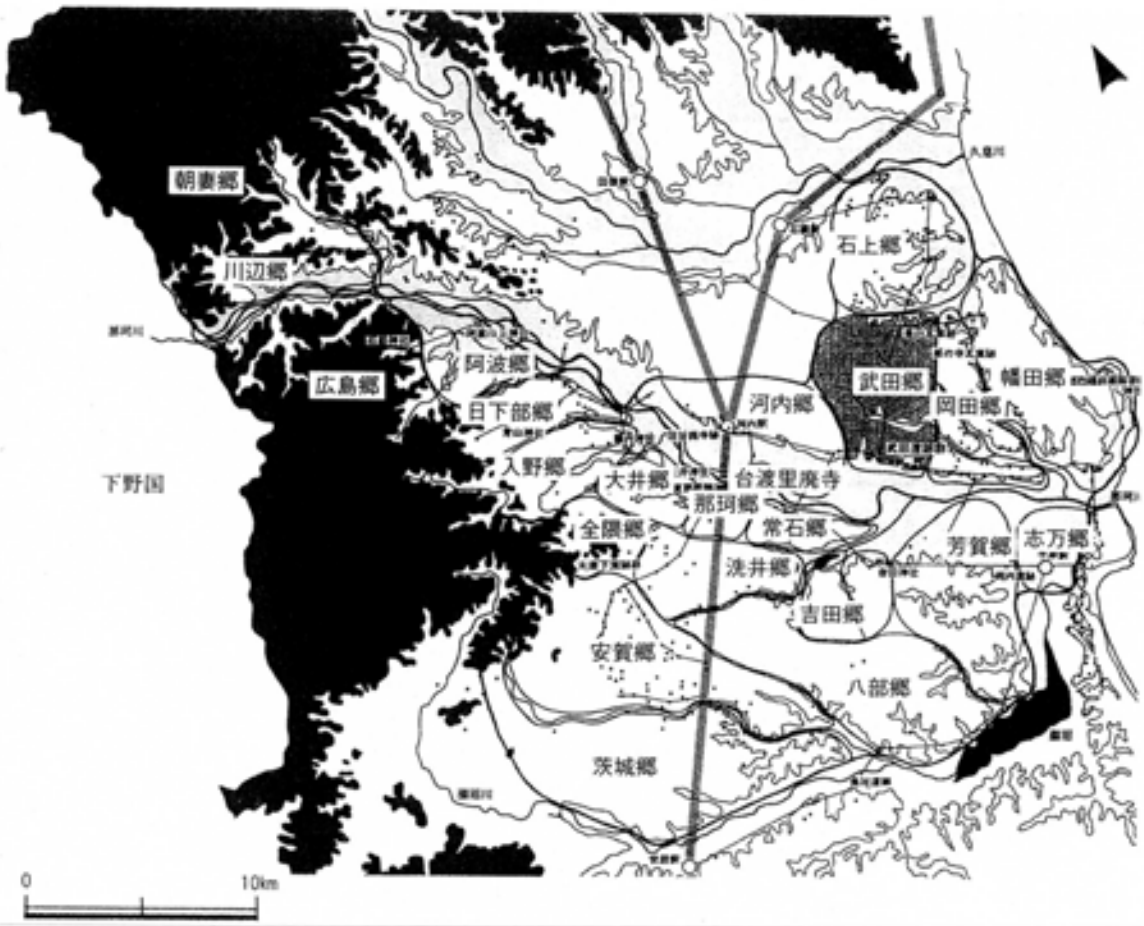
推定される正倉6

推定される正倉7

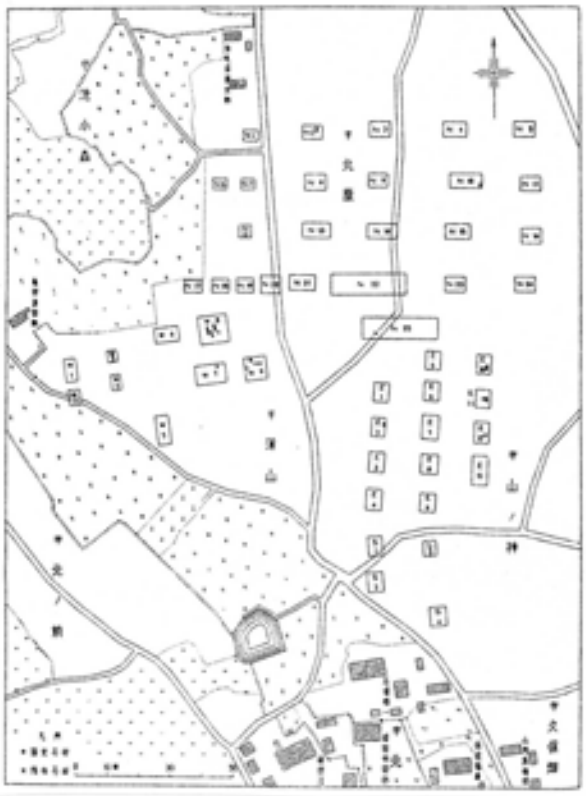
平成 18 年度台渡里廃寺跡長者山地区範囲確認調査遺構配置図



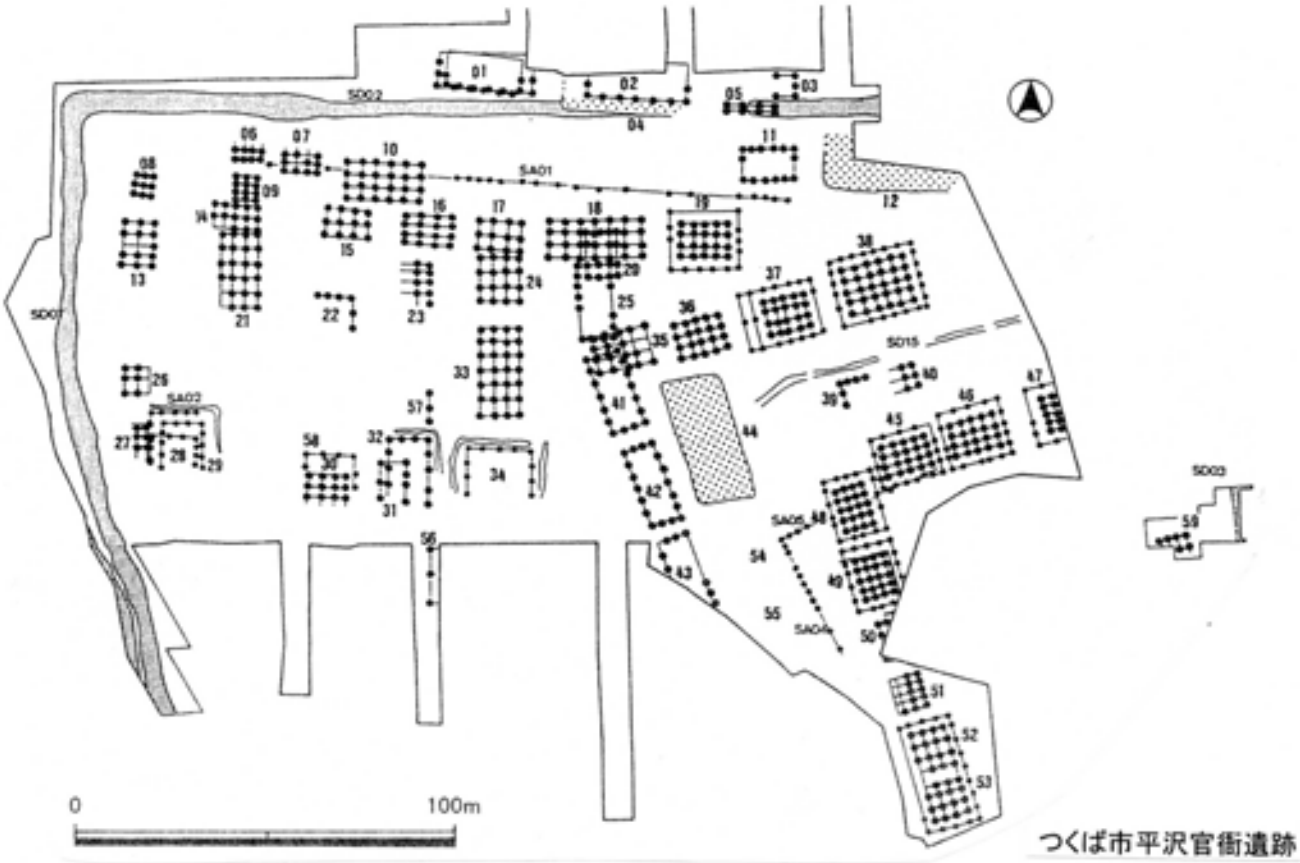
第1図　台渡里廃寺跡の位置（1：50，000）



第2図　奈良・平安時代の那賀郡の郷と遺跡の分布

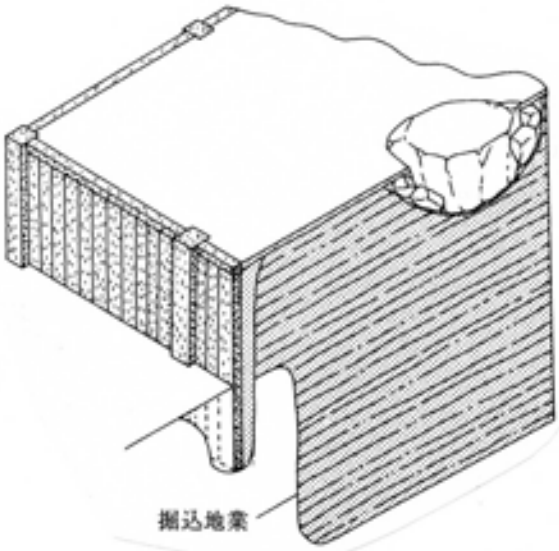


筑西市新治郡衙跡

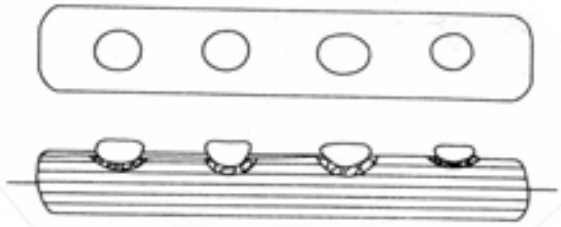


つくば市平沢官衙遺跡

第3図　茨城県内の郡衙正倉院の事例

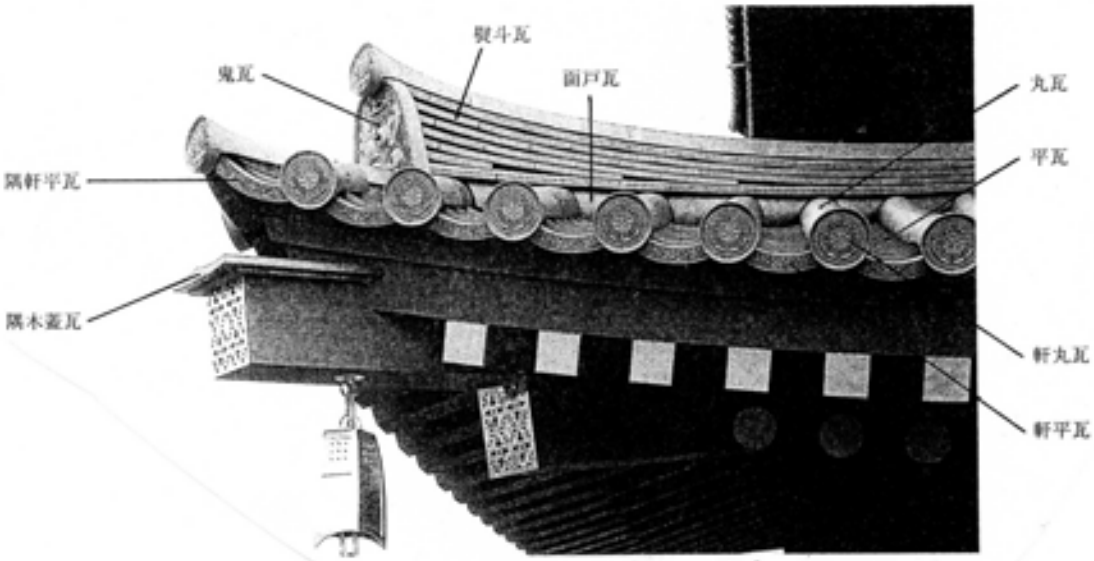


第4図　正倉の基礎の作り方

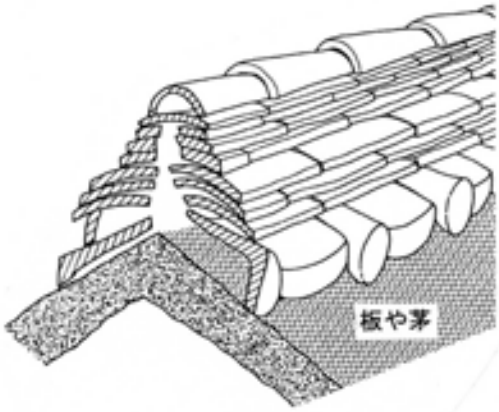


第5図　布地業の模式図

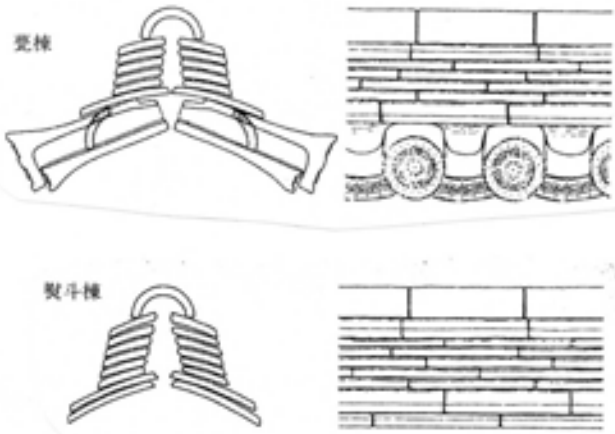
※布地業とは，柱を乗せる礎石の列の部分の地面を帯状に掘って，土を薄く層状に搗き固めながら盛り上げていく工法です。



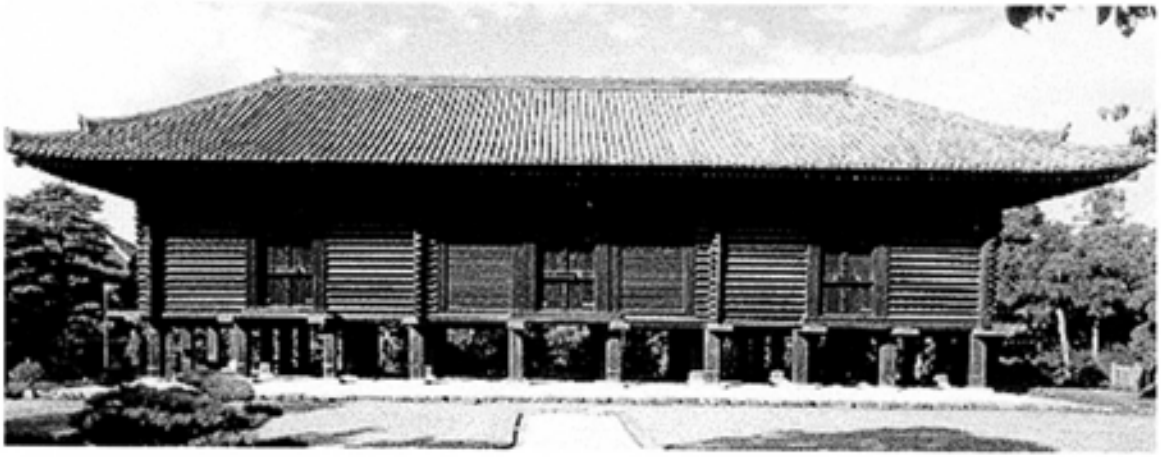
第6図　瓦の葺かれ方と名称



第7図　千葉県大塚前遺跡の甍棟復元図



第8図　甍棟と熨斗棟における瓦の葺き方の違い

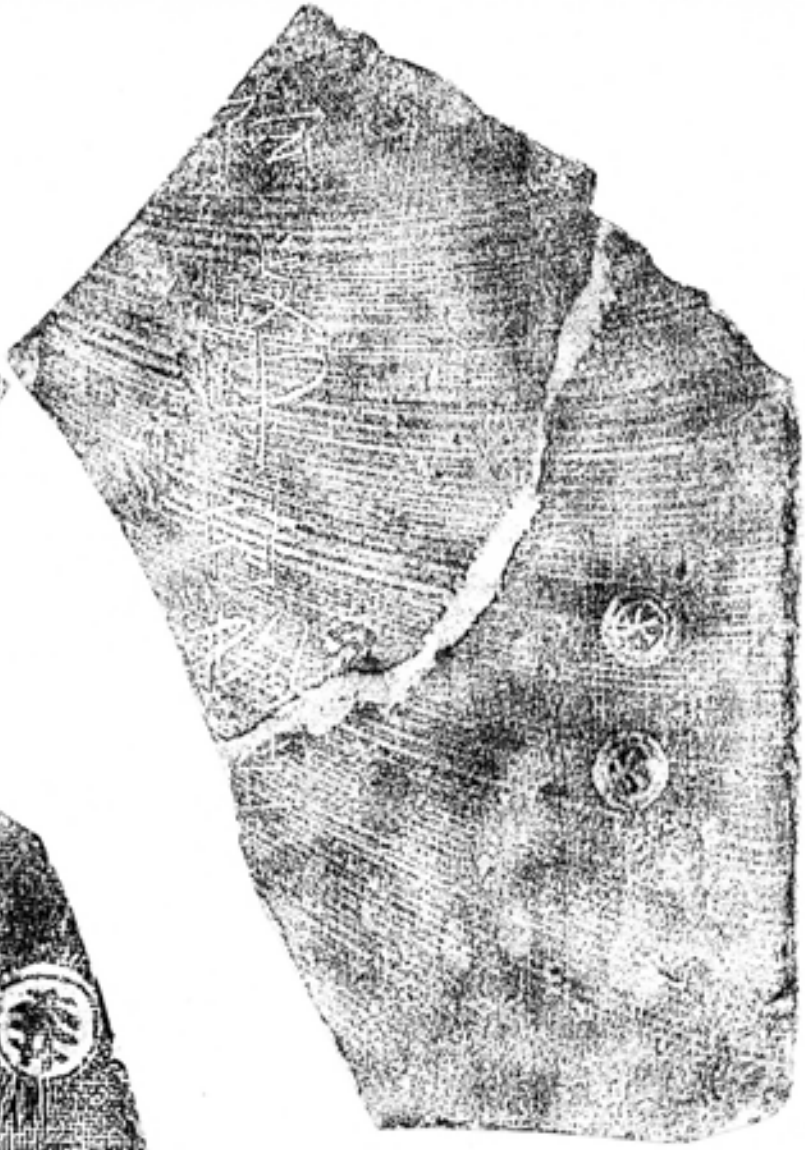


奈良県奈良市東大寺正倉院（9×3間の総瓦葺き正倉）

奈良県奈良市唐招提寺の宝蔵（3×3間の総瓦葺き正倉）

第9図　現存する総瓦葺きの正倉（参考資料）

「丈部長（はせつかべのおさ）」



「阿波中村物□」＋「禾（あわ）」（押印）

「土師部大ヵ」

「大井」（押印）

「真國」

「小川里土師部（おがわのさとはじべ）」

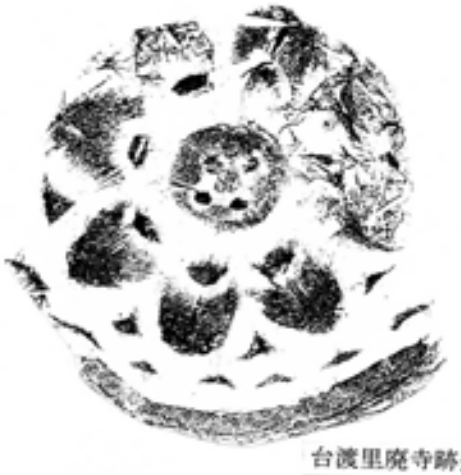
「川部」（押印）

「物部（もののべ）」

「小河里戸主（おがわのさとこしゅ）」＋「川部」（押印）

第10図　長者山第１号跡（SB001）から出土した文字瓦

多賀城跡



台渡里廃寺跡長者山地区

第11図　多賀城の軒丸瓦と長者山第１号跡（SB001）から出土した重弁八葉蓮華文軒丸瓦